

第三課

隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい

神と二人だけに

「あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。」

(マタイ六・六)

イエスは、最初の弟子たちをお召しになってから、山上の説教において最初の公の教えを授けられました。イエスはそこで、神の国と、その法則と生活を彼らに説明なさいました。神の国では、神は王であるだけでなく父でもあられ、すべてを与えてくださるだけでなく神御自身がすべてであります。また、神を知り神と交わることなしに、神の国の祝福は得られません。そこで、当然のこととして、祈りと祈りの生活についての啓示は、イエスが打ち立てるためにおいになった新しい国に関するイエスの教えの一部となったのです。モーセは、祈りについての命令も規則も与えませんでした。預言者でさえも、祈りの義務については、直接にはほとんど語っ

ていません。祈りを私たちに教えてくださったのはキリストです。

主が弟子たちに教えられた最初のことは、祈りのために隠れた場所を持たなければならないということでした。だれもが、神と二人だけになることのできる静かな場所を持たなければならないません。教師には教室が必要です。私たちはすでに、イエスを祈りの学校における唯一の教師として知り、受け入れることを学びました。イエスはすでに、サマリヤで、礼拝は時間や場所には制約されるものではなく、礼拝、すなわち真の霊的な礼拝は、霊といのちが問題であって、その人が全生活をかけて、霊とまことによって礼拝すべきものであることを私たちに教えられました。しかし、イエスはまた、各自に、毎日主とお会いする一定の場所を定めることを望んでおられます。そして、その隠れた部屋、その静かな場所こそが、イエスが私たちを教えられる教室なのです。もちろん、その場所はどこでもかまいませんし、場所を変えなくてはならないなら、毎日変っても差し支えありません。が、生徒が教師の御前に出て、御父を礼拝する自分自身を整える静かな時を過すための、隠れた所でなければなりません。そこでのみ、しかも、そこでこそ、イエスは確かに私たちのところに來て、祈りを教えてくださるのです。

教師は、きまって、自分の教室は明るく、魅力的で、光と天国の雰囲気にあふれ、生徒たちがそこに來ることにあこがれを抱き、そこにとどまりたいと願うような所であってほしいと思っています。山上の説教の中で、祈りについて話されたイエスの最初のことばには、イエスが隠れた

部屋を最も魅力的な光にあふれた所となさろうとしておられる気持がうかがえます。もし注意深く耳を傾けるならば、私たちがそこにとどまって待ち望むべきことについて、イエスが私たちに何をおっしゃろうとしていたのかがすぐに分ります。イエスは、父という名を三回もお用いになりました。「あなたの父に祈りなさい。」「あなたの父が、あなたに報いてくださいます。」「あなたがたの父なる神は……あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」密室の祈りの第一のことは、私は私の父に会わなくてはならないということです。密室を照らす光は、御父の顔の輝きでなければなりません。イエスが密室を満たしてくださる天からの新鮮な空気と、私が息づき祈る雰囲気は、父なる神の愛とその無限の慈愛なのです。こうして、私たちがはき出す思いや願いごととはすべて、御父に対する単純で、心からの、そして子供のような信頼となるのです。主は、このように私たちに祈りを教えてくださいます。主は、私たちを御父の生きた御臨在のもとに導いてくださいます。そこで私たちが祈ることは、必ず聞かれるのです。私たちは更に、主が語ろうとしておられることに、注意深く耳を傾けましょう。

第一に、「隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい」。神は、肉の目から御自身を隠される神です。私たちが神を礼拝する時に、自分の考えや儀式などに支配されているうちは、いつまでたっても目に見えない、霊であるお方にお会いすることはできません。しかし、この世と人間に属するすべてのことから自分を遠ざけ、ひたすらに神だけを待ち望もうとする者には、御父は御

自身を明らかにしてください。私たちがこの世と、この世の生活を捨て、あきらめ、締め出し、キリストに全く身をゆだねて、導かれるまま神の臨在される隠れた所に行く時に、御父の愛の光が私たちの上に輝き出るのです。密室に入って戸を閉じ、まわりのものから完全に隔離されることは、神の幕屋の内にある垂れ幕に隔てられた靈的聖所へ行くこととなり、私たちは導かれて、私たちのたましいは目に見えないお方に親しくお会いできるのです。こうして、私たちは、効果ある祈りの秘訣を探る最初の段階を教えられます。それは、神と二人きりになる密室でこそ、正しい祈りが学べるということです。隠れた所においてになる御父のみことばによって、イエスは神が私たちをどこで待っていてになるか、どこで神にお会いできるかということも教えてくれました。キリスト者はきまって、どうしても個人的祈りが本来あるべき祈りにならないと言って不平をもらします。彼らは、自らの弱々しさと、罪深さと、心の冷たく暗いことを感じ、祈ることがほとんどなく、その祈りさえも、信仰も喜びもないありさまです。彼らはがっかりして、自分にはあるべき姿で、またありたいと願う姿で神のみもとに近づくことなどできないと思ひ込み、祈りをやめてしまします。神の子よ。あなたの教師の言うことに耳を傾けなさい。その教師はあなたに、密室の祈りをする時には、まず次のことを頭に入れておきなさいと教えています。すなわち、御父は隠れた所におられ、そこで私を待っておられます。心が冷えて祈れなくなっているからこそ、愛の御父の御前に出なさい。父親が自分の子供をあわれむように、

主はあなたをあわれんでくださいます。あなたが神にささげるものがいかに少ないかを考えるのではなく、神がいかに多くのものをあなたに与えようと望んでおられるかを考えなさい。ただ自分を御前に投げ出し、御顔を見上げ、神の愛——すばらしく、優しい、あわれみ深い神の愛を考えなさい。そして、自分のすべてがいかに罪深く、冷たく、暗いかを主に申し上げなさい。御父の愛はあなたの心に、光と温かさを与えてくださいます。ただ、イエスが言われたとおりに行いなさい。「戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。」私たちが無限の神のみもとに行き、神と二人だけになり、神を見上げて「私の父よ」と言えることは、なんとすばらしいことではないでしょうか。

「そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。」ここで、イエスは私たちに、隠れた祈りは実を結ばないはずはないと保証されています。その祝福は、私たちの生活の中で実現するのです。私たちは、隠れた所で神と二人だけになり、自分の生活を神にゆだねるべきです。そうすれば、神は私たちに公然と報いてくださいます。すなわち、祈りの答が私たちに対する神の祝福として現されるようになるのです。主はこうして、神が無限の父なる方、また忠実なる方として隠れた所でお会いくださるということを教えようとされたのです。それゆえに、私たちとしては、子供のような単純な信仰と、私たちの祈りは必ず祝福をもたらすという確信をもって祈らなければならないのです。「神に近づく者は……神を

求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。」密室における祈りの祝福は、祈る時の強烈な感情にかかつているものではありません。ただ御父の愛と力にかかつていたのであって、私はこの御父に私の必要をゆだねるのです。ですから、主が望んでおられることはただ一つです。すなわち、御父は隠れた所におられ、隠れた所でご覧になり、隠れた所でお聞きになることを覚え、そこに行き、そこにとどまり、御父が報いてくださるという確信をもつてそこからまた出て来ることです。御父を信じ、頼りなさい。御父への祈りは、むだに終ることはありません。御父は必ず、公然とあなたに報いてくださるのです。

更に、父としての神の愛に対する信仰を確かなものとするために、キリストは三番目のことばとしてこう言われました。「あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」初めの印象としては、このみことばは、祈りの必要性を弱めてしまうように思えるかもしれませんが、しかし神は、私たちが知るよりもはるかに、私たちの必要を御存知なのです。ですから、祈りとは本当に何なのかということを経験し、更に深く悟るならば、この真理は私たちの信仰を強めるのに大いに役立つものとなるでしょう。またこの真理は、異教徒のように、多くの、強制的なことばで、気の進まない神に無理やり耳を傾けさせようとする必要はないことを教えています。もし私たちが御霊に導かれて、私たちの求めがみことばに照らして神の栄光を求めるものであることが確かめられるならば、この真理は私たち

にすばらしい確信を与えて、私たちに、「御父は、私がこれが必要としていることを本当によく御存知なのだ」と言わせるのです。その時、私たちはこう言うでしょう。「私の父は、私がそれを必要とし、どうしても手に入れたいことを御存知なのです」と。もし祈りの答が遅れるようなことがあっても、この真理は「御父よ、あなたは、私がそれを必要としていることを御存知です」と、どこまでも静かに忍耐して待つことを教えてくれます。子供のような自由と単純さは幸いです。私たちが神に近づく時に、私たちの教師であるキリストは、喜んで私たちのうちにこれらのことをつくり出してくださいなのです。それならば私たちは、御霊がそれを私たちのうちに行ってくださいよう御父に願おうではありませんか。時に私たちは、熱心に、あせって願うあまり、御父が知っていてくださり、聞いていてくださることを忘れてしまうことがあります。ですから私たちは、しっかり心を引き締めて、「御父は見ていてくださいます。聞いていてくださいます。知っていてくださいます」と静かに言いながら進みたいものです。こうすることは、私たちの信仰を強め、祈りの答を与えられたと信じさせ、「私たちは御父にお願いしたのだから」と私たちに言わせるのです。

祈りを学ぶためにキリストの学校に新たに入学した皆さんは、以上のことを学び、実行し、それがあなたのうちに完全にされるように主によりたのみなさい。密室の戸を閉じて、そこに長くどまりなさい。人間から離れて、神と二人だけになるために戸を閉しなさい。そこで御父があ

なたを待つておられ、イエスがあなたに祈りを教えてくださるのです。隠れた所で御父と二人だけになることを、あなたの無上の喜びとしなさい。御父は、密室の祈りに公然と報いてくださいます。ですから祝されないことはあり得ないという確信を、あなたの毎日の力としなければなりません。あなたが求めていることは、あなたに必要なものであることを御父は御存知です。あなたはこのことを知っています。ですから、神はキリスト・イエスにある御自身の栄光の富をもつて、あなたの必要をすべて満たしてくださると確信し、自由にあなたのすべての求めを御父に携えて行きなさい。

恵み深い主よ。私は、隠れた部屋であなたとお会いできるという約束のゆえに、あなたを心からほめたたえます。そこは、あなたがあなたの生徒一人一人とお会いし、御父を啓示してくださる学校だからです。主よ。私の信仰を強めて、御父の優しい愛と恵みを信頼する者とならせてください。私が自分の罪深さや困難な問題を感じた時、御父が私を待つていてくださる所、祈りが祝福されずに終ることのない所に行くことを、まず直観的に思うことができるようにしてください。私が求める前に、御父は私の必要を知っていてくださいます。ですから、私を導いて、子たちが求めるものは、御父がかなえてくださるという安心した信仰をお与えください。願わくは、

隠れた祈りの部屋が、この世で私の最も好きな場所となりますように。

そして、主よ。あなたを信じる人々の密室を祝福してくださいと祈る私の祈りを聞いてください。御父の優しさによって、密室の祈りを義務や重荷と感じる若いキリスト者たちを解放し、それこそ人生の最高の特権、喜び、祝福であるという考えに至るようにお導きください。祈りの中で、あなたを見出すことができずに落胆している者たちを連れもどしてください。すべてを与え、喜んで与えてくださるお方のもとに、自分のむなしさをただ持って来るだけでよいことを悟らせてください。このことを理解する力を彼らにお与えください。御父のもとに何を持って行くべきかではなく、御父が何を与えようとして待っておられるか、ただこのことだけを考えるようにさせてください。

願わくは、特にあなたのために働いているあなたのしもべたちの隠れた部屋を祝し、そこを神の真理と恵みを示していただく場所、毎日新鮮な油注ぎを受ける場所、また力を新たにしていただく場所とし、他の人々の祝福になる祝福を信仰によって受ける場所としてください。主よ。隠れた部屋において、更に私たちをあなたと御父へ近づけてください。アーメン。